

コンサートレポート

超満員！

• • • • • • • •

習志野シニアアンサンブル 第2回定期演奏会



去る5月31日（水）習志野SEの第2回定期演奏会が催された。私は午前中にほかの楽団の練習を済ませ、午後1時過ぎに会場の大久保市民会館に到着したが既に会場はワンクードーにも関わらず超満員だった。収容400名に対して50名の方が残念ながら入場できなかったという。

千葉県連の市川・千葉SEの団員

たちが受付や会場整理に汗だくの様子だった。演奏は第1部はクラシック、第2部が映画音楽5曲、第3部はラテン5曲、第4部は日本の名曲5曲で構成、アンコールを入れて22曲が次々に披露された。当団は男女のボーカリストや尺八の名手などユニークな役者に恵まれており、それらを演奏会に手慣れている澤田敏春先生がうまく活かしておられ、聴衆もその辺を期待しているようだ。演奏は全般に前回よりも洗練され気軽に楽しむことができた。月岡代表は直前の片目の重症というハンディを乗り越えてコンマスとし完遂され頭が下がった。次回は入場できないお客様のないように工夫をしてほしいところ。（全シ連：岡村記）

熱い気持ち

• • • • • • • •

千葉シニアアンサンブル それいゆ 初夏の風コンサート



千葉SEそれいゆによる『初夏の風コンサート』が千葉市美浜文化ホールで行われました。要整理券にもかかわらず会場時間には長蛇の列で、定員350人余りの席はすぐに満席となってしまいました。

開演合図の鐘の後、「パーセルのロンド」で始まり「美しく青きドナウ」「仮面舞踏会」「ハンガリー舞曲」「アラゴネーズ」。思えばハンガリー舞曲以外は3拍子。それぞれ趣の異なるワルツで乗りの良い第1部がスタートしました。千葉SEは弦楽器が多く、

しかもチェロ2・コントラバス2と低音部も充実しているので音色はもちろん見てもクラシックが似合うように感じました。

第2部は雰囲気一変してカラフルな衣装でタンゴを中心に6曲。日本ではアルゼンチンタンゴとコンチネンタルタンゴの2種類に区別しているとか。曲目はポピュラーでしたが千葉SEならではの落ち着いた演奏が印象的でした。

第3部との間に新団員の紹介。音楽に対する熱い気持ちが伝わってきました。代表の方からは「千葉SEはブログもあります。是非のぞいてみてください。」とのことでした。第3部は日本人作曲の耳に懐かしい曲で構成。演奏も軽やか。途中「亞麻色の髪の乙女」ではヴァイオリンの方が歌うなど変化のある演出。アンコールは「浪路はるかに」。最後の3曲は客席も一緒にみんなで歌い和やかな演奏会の一日となりました。

レポート：船橋SE 石井幸雄

音楽をつくる歓びを仲間と共に

• • • • •

上総シニアアンサンブルオープニングコンサート

オープニングコンサートを2017年7月9日（日）に袖ヶ浦市長浦公民館で開催しました。去年10月に発足して9ヶ月でコンサートをするのは少し無謀では？という意見もありましたが、指導者の藤崎先生をはじめ団員の頑張りで今日の日を迎えるました。

第1部は、映画音楽とクラシック、第2部は、ゲストによるマリンパ演奏、内1曲は団員のYさんとのデュオ。第3部は、懐かしい歌からと題して8曲を演奏。暑い日でしたが、130席ほどの座席はほぼ満席でした。初めての演奏会で団員一同、始めはかなり緊張していたように思えました。団のテーマ曲「80日間世界一周」から始まりだんだん落ち着いてきました。心配していた「カバレリア…」もリハーサルの時より良くできたと思います。第3部の「黒人靈歌…」や「サントワマミ」は練習不足を心配していましたが、それなりにまとまりました。最後の曲の「宇宙戦艦ヤマト」は今までの演奏で一番良かったかなと思えるほど盛り上がりました。

終了後、お客様から嬉しい言葉を沢山いただきました。お客様に楽しんでいただき我々も楽しく演奏できたことがなによりです。打ち上げでみんなの感想を聞いていると、上総シニアがますますまとまってきたなと感じました。まさに“音楽をつくる歓びを仲間と共に”です。



レポート：上総SE 永野寛子